

校長室だより

平成26年 6月 4日(水)
羽咋市立瑞穂小学校 No. 2



共 育

育ちあいジャーナルから

5月17日(土) 運動会が終わりました。子ども達にとっては思い出に残る大きな行事でした。学校だよりや学級からのお便りで運動会の様子はお知らせいたしましたが、子ども達はこの運動会をとおしてどのようなことを学んだのでしょうか。子ども達が記録に留めている「育ちあいジャーナル」の中からご紹介します。



今日、運動会がありました。私たちは運動会をする前に5年生みんなでおんじんとハイタッチをしました。さいきん、5年生は男女なかよくなってきたのでチームだなと思いました。(5年)

土曜日運動会がありました。少しはんそくっぽいところもあったけど、みんなでおたがい団結しあえてよかったです。そして係委員会で得点(合計)がちがって直したりなど、「よく考えて行動」はあまりできなかったように思いました。

でも6年生は二度と小学校の運動会にでれないのでいい思い出になってくれればうれしいです。(5年)

今日、運動会がありました。赤組で団結して勝利することができました。みんなが力いっぱいがんばって、そして応援があったからこそ勝利できたと思うので赤組のなかまに感謝したいです。今年最後の運動会だったけれど、とても楽しくできたのでよかったです。どのきょう技も思い出にのこっているのでも中学へ行っても今年の運動会をわすれずにいつまでもいい思い出にしたいです。(6年)



「いざ、運動会本番へ」 6年教室にて

今日、運動会がありました。私の目標は「勝っても負けても全力でやり、全力で楽しむ！！」でした。私はそれが120%以上できたと思いました。白は負けたけど、つなひきやタイヤうばいでチームで協力して仲間を精いっぱい応えんしたのでこうはいはありません。鼓笛の演奏も今までで一番良くてきたと思います。最後の瑞穂っ子ソーランもバッチリ決められました。6年生パワーと瑞穂っ子パワーが結集した、まさに「最高の運動会」だったと思います。(6年)

振り返りの内容から、個人として、学級として、学年を越えてと、視野が広がっていく様子が伺えます。

運動会后、日頃は5、6年で行っている高学年集会に、4年生も参加することになりました。その時の感想も紹介します。

今日、ドリルタイムに高学年集会がありました。今回は4年生も高学年集会に入りました。4年生は初めてだったので、発言した人が少なかったです。5、6年生は発言した人がいっぱいいたのでよかったですと思います。5年生のYさんが「4年生はどうですか」と4年生に発言させるチャンスを与えていたのでよかったですと思いました。5年生は前よりも高学年としての意識が高まっているので、この調子で高学年に近づいてほしいです。(6年)

今日、高学年集会がありました。5、6年生から4年生のよかったところができました。わたしも次みんなのいいところをみつけて、みんなの前ではっぴょうしたいです。(4年)

「余白」を大切に

私たち職員は、子ども達によく考えて自分たちから行動を起こすことの大切さを学んでほしいと願っています。

子ども達は目標がはっきりし、意欲がわいた時、大人が思っている以上の力を発揮してくれます。子ども達にとって、そうした経験は、大きな自信となり、次の壁を乗り越える強さを育ててくれるものとなります。また、教師にとっても、子ども達の可能性の大きさを改めて実感する貴重な機会となるのです。

書道の大切な教えの中に「余白を活かす」という考えがあります。私たちはとかく、書かれた文字にだけ注目しがちですが、実は文字を引き立たせる余白の存在感を忘れてはいけないということなのです。

瑞穂小学校では、学校生活の様々な場面で、安全面の確保を基本としながらも、子ども達に「任せる」いわば「学びの余白」を大切にする姿勢を心がけています。それは最初から最後まで、先生がレールを敷いてその上を歩ませるのではなく、子ども達に現状を投げかけ、考えて行動することを身につけてほしいと願っているからです。そのためには、失敗も学びの一つに活かすという心構えを持つことも必要だと考えています。

この「育ち合いジャーナル」は、子ども達の成長の跡を、教師自身が実感し、「学びの余白」が子ども達の手によってしっかり埋められたことを確認する貴重な財産となっています。